



# みどりの風

平成24年11月2日発行  
校報 第491号  
〔みどりの風 第34号〕  
練馬区立関町北小学校

## 変身

校長 大野 泰弘

「変身」とは、辞書によると「姿を変えること。また、その変えた姿。」〔広辞苑〕ですが、皆様は「変身」という言葉からどんな人物を想像なさいますか。

正義の味方「月光仮面」、様々な宇宙怪獣と戦う「ウルトラマン」や「ウルトラセブン」、それこそ「へんしん」の一言でブームになった「仮面ライダー」でしょうか？人それぞれ、その人にとっての子ども時代のヒーローやヒロインを思い起こすことができるのではないかと思います。私にとってのヒーローは、「ウルトラマン」や「ウルトラセブン」でした。

そして、小学生時代の学芸会で今でも覚えているのは、「森のおくりもの」というお芝居で、私の選択ではなかったのですが、悪役の「オオカミ大臣」の役に「変身」したことです。私は「ヒツジ大臣」になりたかったのですが、「は、ははあ」と頭を下げながら声を出す、その一言のセリフが上手く表現できず、何度もNG＝「やり直し」が出ていました。

さて、今月の16日と17日には、本校の学習発表会が開催されますが、劇団「創芸」の資料を紐解いてみますと、次のようなことが示されています。

演劇には「人間」が（動物として書かれていても）登場します。その「人間」は、舞台の上で、困難にぶつかり、悩み、苦しみ、やがてそれを乗り越えていきます。ある凝縮された「人生」（の一部）を生きるということです。児童は、自分とは違うその「人間」を舞台の上で演じることで、自分を客観視し、いつもの自分を変えようとする力を身に付けていくこととなります。劇を見る児童も、舞台の上の「人間」に共感し同化することができたとき、演じる者と同じように、普段の自分を変えようとする力を身に付けていきます。感動のある舞台は、舞台上の子どもも、観客の子どもも高めることができるのです。

私は、この劇団「創芸」に所属する方にお会いしたことはなく、あくまで書籍を通しての出会いではありましたが、この考え方がベースにあって、担任時代も子どもたちと劇を創ってきました。でも、専門家の方のようにはできなくて、舞台を楽しく創るというよりは、苦しみや悩み、葛藤に苦悶し、限られた時間と格闘する日々であったように思われます。

本校では、学習発表会を開催するにあたり、昨年度から、奇数学年は音楽的な要素のほかに、国語的な内容も取り入れることとし、また、偶数学年は既成の脚本をもとにした「演劇」をすることもできるようにしました。それは、上記の考え方のもと、子どもが自らの役になり切り、新たな役に「変身」することで、自分自身の可能性に気付き、自己肯定感等も育てることができると考えたからです。そして、キャストだけでなく、演劇を支えるスタッフ、音楽を奏でる子どもたちと見る側の子どもたちが今まで以上に心一つにして、感動を共有することによって得られる教育的な効果も高まると判断してのことです。

学習発表会で各学年が上演する内容は、どれもそれを子どもたちが真剣に行うことで、心を豊かに成長させることのできるものばかりです。1年生から6年生までのすべての演目をご覧いただければ、その発達段階、成長過程を感じていただくこともできるでしょう。子どもたち一人一人が、ミュージシャン、アクターやアクトレスに「変身」して、自分に自信をもつだけでなく、観る側の子どもたちの心までも感化し、互いのよさを認め合うようになっていく、そんな2日間の「関町北劇場」の開幕が近付いています。647名の子どもたちによる「劇団：関町北」の感動的な音楽、演劇をどうぞ楽しみにしててください。

学習発表会の詳細は、学校からのお知らせやプログラムでご確認いただくこととなりますが、子どもたちは舞台の上で、あるいは、舞台の陰で、それぞれ新しい自分に「変身」し、舞台を「創造」しますが、皆様には子どもたちの活躍に温かい言葉や拍手を「返信」していただき、様々な思いを「想像」していただければ幸いです。そして、芸術の秋、感動のひと時を共有できたら素晴らしいことであると思っています。

### 11月は、いじめ防止取組月間&児童虐待防止推進月間です

本校では、過日お配りした文書に沿って「いじめ防止」に取り組んでまいりますが、今月は、児童虐待防止推進月間でもあります。同じ地域に育つ子どもたちをいじめや虐待から守りながら、子どもたちの生命と心を、そして、限りなく広がる子どもたちの夢を温かく育てていきましょう。